

令和元年度 岡山県文化振興審議会

日 時：令和2年1月21日（火）10時～11時30分

場 所：ピュアリティまきび 3階 飛翔

1 開会 環境文化部長あいさつ

2 議事

- ・令和元年度県実施事業について
- ・おかやま文化振興ビジョンの進捗状況について
- ・令和2年度県実施予定事業について

【事務局が資料に基づき説明】

【議 長】

- ・事務局の説明から、非常に多岐にわたった活動が岡山県で展開されているということがよくわかった。このような岡山の活動には、国民文化祭のレガシーが残っていることを国も注目している。また、今年は東京オリンピックイヤーということで、我々の文化の強みをアピールし、前進させるチャンスではないか。

【委 員】

- ・各事業概ね順調であることや、国文祭のレガシーが引き継がれていることを文化庁に高く評価されたと聞き大変嬉しく思う。
- ・「学校行事で県立美術館を訪れた人数」の減少といった課題が残っていることが気になる。
- ・小中学生の間に文化に触れることは基本となることであることを先生方に理解いただく必要がある。学校の文化授業として当たり前前に美術館に行くことを定着させるシステムを作っていかなければならない。
- ・このことは、教員養成の段階から取り組む必要があり、大学の教育学部においても、そのようなプログラムの開発に関わっていきたい。教員養成改革にも、そのような方向性が入ってくると思うし、入らせるよう努力していきたい。
- ・今年度から、「みんなの参観日」という事業が始まったということはとても大事なことだ。まだ参加校は非常に少なく課題は多いが改善に努め、子どもや家族が美術館に足を運んでもらえるようなきっかけ作りとなればと思う。
- ・学校の授業の中で行われている様々な活動が文化財と結びつくような回路を作っていきたい。

- ・「ポータルサイト」に着目されていることは心強い。岡山大学のある科目では、学生から美術館博物館の活用方法等についてのアイデアを出してもらっているところであるが、そのアイデアの中に、携帯電話やスマートフォンなどで活用できる通報アプリを開発してはどうかというような意見が出た。
- ・例えば、岡山の文化事業について登録しておけば、それに関わる事業の広報メールが届き、また、展覧会の会期が終わりになると、それを知らせるメールが届くというしくみだ。
- ・そのようなアプリ開発にも目を向けていただけたら面白い展開ができるのではないか。

【議 長】

- ・文化はなくても生きていけるが、豊かな生き方をする為には文化なくしては生きていけない。小中学校でも文化に触れるというのは基本中の基本だということを前面に打ち出していく必要がある。
- ・子どもにとって今の時代は、時間に追われ、あるいは、ゲームに時間をとられ、文化から遠ざかる世の中へ進んでいる様にも思う。
- ・そうした状況の中で、少しでも良くなる方向を見つけていくのが、学校の先生なり、この文化振興審議会の役目ではないか。
- ・ポータルサイトも、若者が馴染みやすいソフトがあれば、効果的なものになるのかも知れない。

【事務局】

- ・ポータルサイトについて、最初はアクセス数が伸びなかったが、ツイッターをからめることでアクセス数が急激に伸びてきたという状況だ。工夫しながら、さらに周知してまいりたい。

【委 員】

- ・「おかやま文化芸術アソシエイツ」の中心的な活動である「文化芸術交流実験室」は、美術、工芸等、様々な文化を幅広く網羅し、ワークショップなどを通じてそれらを交流させるもので、ユニークな息の長い取組みになっている。
- ・「文化芸術交流実験室」に参加した人達は、文化芸術、地域づくりの核になる人達だと思う。今後もこのような活動や場を継続すべきだと思うが、そのための手だてはどうか。
- ・「美作三湯芸術温度」は大変面白い。県内外から本当に多くの作家が美作三湯

の旅館に作品を展示し、それを通じて、地域や温泉の魅力を発信するというものだった。

- ・その成果について、温泉客や地元の人達の反応についても教えて頂きたい。
- ・「美作三湯芸術温度」の成果や課題をしっかりと検証し、このような文化のユニークな試みを、他の場所でも積極的に行い、各地域を元気づけるという方向に向かって欲しい。
- ・また、こうした試みを成功させる為には、やはり作家の方々に地域をしっかりと理解してもらい、その地域の特徴を捉えてから作品を作って展示をして行くという、そういう時間、エネルギーを得る丁寧な創作態度というのが必要だろう。地域の人も、作家を受け入れて一緒に盛り上げていく動きが生まれてくれば、これが岡山のそれぞれの地域に活力を生んでいくのではないかと思う。
- ・指標について、県民文化祭の総参加者数が減少している理由はなにか。

【事務局】

- ・アソシエイツについては、行政とは違い、第三者的で客観的な存在になっている。なおかつ継続的に取り組む専門スタッフの育成が図られることから、真に必要なものと考えている。オリンピック以降も継続の方向で検討して参りたい。
- ・「美作三湯芸術温度」の反応についてであるが、旅館の方からは、旅館や温泉に来られるお客さんの高齢化のため、県外に行くよりは行きやすいということで、県南からのお客さんが増えている状況と聞いている。
- ・県政広報誌等に掲載したことから、県南の方にしっかりと知っていただき、見てよかったのでもう一度奥さんと一緒に泊りに来たとか、そういう事例があった。
- ・地元の方は、この事業をきっかけにして気軽に旅館を訪れることができ、近くにあるけど知らなかった旅館のことを知ることができたようだ。地元の人にとっても身近な存在になれば、旅館としては非常にありがたいとお聞きしている。
- ・この事業を受け、奥津では地元独自の芸術祭が実現された。「美作三湯芸術温度」と同時期に行い、一緒に盛り上げようということだった。
- ・ポートアートデザイン津山の館長からも、県北で文化を巡る活動が非常に盛んになってきていると聞いており、いい流れになってきている。
- ・県民文化祭の参加者数について、30年度の参加者数が19万7千人と少なかったのは、児島の繊維祭りの影響を受けたからだ。今年度は12月末で22万人

であり、現在集計中である。

【議 長】

- ・「美作三湯芸術温度」以外の行事についても、県内でどういうことを行っているかが一目で分かるようにすれば住民にとって利便性が高まるのではないか。
- ・「美作三湯芸術温度」の成功は、やはり無料であるということと、旅行で来られた人に、旅行以上に、すごいことの発見や体験をしたという儲けた感があったからだろう。

【委 員】

- ・美作三湯は、岡山から行くと1時間半かかり、ちょっと躊躇するところがある。
- ・15年前と比べると、昔は作家一人が勝手に物を作っている様なそういう時代だったが、今回の事業などを見ると地域にも盛り上がりが発生するように変わってきており、作家への支援の流れもでてきている。
- ・岡山芸術交流に多くの小学生や中学生が訪問しているが、それは、バス支援が背景にある。どこの学校も生徒達を校外へ連れ出すことは至難の業だ。子ども達を連れて行く体制をつくるのが非常に大事なのではないか。
- ・今は美術の専門の先生が少なくなっている。そして、美術教育については、小学校も中学も時間数が少ない。(受験用の)教育だけに熱心で、美術は外れてきていると感じている。
- ・美術家協会でも協力はするが、小学校や保育園へ、出前授業などで出ていき、子ども達が芸術や音楽の授業が受けられるような体制を作っていく必要がある。
- ・岡山芸術交流は、海外から来た人に、お金をかけすぎているのではないかと思う。もちろんインバウンドでの還元もあるが、せめて3分の1でも、そういう授業体制の整備に充てていただければと思う。

【事務局】

- ・文化連盟では、色々な芸術の部門で、美術家の方や文化関係者が出前授業をしており、非常に力を入れているところだ。

【議 長】

- ・美術の専門の先生がいないというのは、致命的な問題だろうと思う。感性を養

うために、専門の先生がリードすれば、パッと心開いたり、芸術が磨かれたりということがでてくる。

- ・特に県北に行くには、1時間半もかかるが、お金がかかることでも、例えば県北で演奏会をすることなどは大事なことだと思う。

【委員】

- ・県の過疎地域で「美作三湯芸術温度」をされたことは非常に良かった。県北部に限らず統廃合で学校の跡地利用というのは、今後益々求められてくることだと思う。
- ・昨年の秋に瀬戸内国際芸術祭の関係で小豆島に行った。9年ぶりに行って変わったと思ったのは、瀬戸内国際芸術祭をきっかけに常設の展示を地域の人が続けておられ、そこに新しく若い人が入ってきて、若い人の定住が始まっていることだ。
- ・アートで地域づくり実践講座のマネジメント講座生については、場所とのマッチングが大切だ。
- ・備前福岡には、当時地域おこし協力隊で瀬戸内市に来られていた方が、地域を繋いで活性化され活躍されている。
- ・矢掛では、受講生で参加された石屋さんがアーティストと一緒に、石でコーヒー豆やチョコレートを挽いてチョコレート屋のようなバーカウンターを作っておられる。
- ・そのような細かい事例を拾いながらアソシエイツと一緒に広げていけば、そのレガシーが目に見える形で繋がるのではないかと思った。
- ・場所を活かすという事だ。
- ・次に大事なことは「人」だと思う。インバウンドの話もあったが、過疎地域では人が少なくなるだけではなく高齢化が非常に進んでおり、その地域にインバウンドのおもてなしを要求するのは非常に酷なことではないかと思っている。
- ・笠岡諸島は後期高齢者が半数以上で、さすがに75歳以上の人にインバウンドのおもてなしをいうのは難しい。伝統芸能に携わっている上にさらにというのは非常に酷なことだ。
- ・その受け入れ側の高齢者をどういう風に支えていくかということで、若い人を取り込むことや、前向きな人との出会いに力を入れたら面白いのではないかと思う。
- ・台湾では総督府時代の専売公社の跡がクリエイティブデザインセンターにな

って、多くの若者達が実験の場として出店をしており、日本からも大勢の人が出店をしていた。

- ・ベースになったものを生かして、その場所に新しい人が入る仕組みというのが非常に上手く融合されている事例だと思う。
- ・「ポートアート&デザイン津山」も銀行跡であり、倉敷でも銀行跡を美術館としてリノベーションされる予定だ。
- ・ある物を生かすというところが大事だと思う。

- ・最後に、足元を掘り起こすこと。
- ・旧牛窓町のアーティストが発見した古窯跡群についてであるが、ここはアーティストのこだわりを含めて受け入れる地域の寛容性があったから、その地域は文化面で伸びたのではないかと思う。
- ・インバウンドよりも、足元を掘り起しながら、その寛容性、岡山ならではのものを見つけていくと、そこでしかない物が生まれてくるのではないかと思う。

- ・レガシーをこれからどう生かすか残すかというところで、実験もよいが、高齢者だけに頼るのではなく、インバウンドだけを見つめるのではなく、ということも重要だと考えている。

【議 長】

- ・「あるものを生かす」、「足元を照らす」ということ、文化というものは、世界中同じものはない。それは地理的に環境や自然を見ても分かるように、同じバックグラウンドは絶対がない。だから、そこへ住んでいる人が自分の地域を大切にすればよい。
- ・インバウンドで来る人は、最近ピンポイントで探して来る。やはり自分の世界にはないものを訪ねて来るのだろう。

- ・長野県で瀬戸内国際芸術祭と同じ様なことをやっている事例だと、高齢者は、最初はとっつきが悪かったが、自分でやってみると、徐々にモダンアートの面白さが伝わっていったという例がある。
- ・そこへ東京の若い女性達が手弁当で高齢者を支援に来てやっていたということだ。そこで役にたっているという思いを、元々そこへ住んでいる人々とそれを支援しようとする人が共有したのではないかと思う。

【事務局】

- ・その土地にしかないものを大事にしていけないといけない。最近の県北の動き

をみて思う。

- ・色々な地域で、そういう動きが少しずつ活発化している気がする。そういう流れにのっていかないといけない。

【議 長】

- ・やはり地域が一番大切だ。

【委 員】

- ・岡山県主催の「津山ベルフォーレ」を会場としたオーケストラ演奏会の企画は素晴らしい。開催場所であるベルフォーレ津山は、中四国地方で最も優れた音響を有するホールではないかと思う。
- ・現在、津山文化センターが大規模改修中だが、リニューアル後は文化センターにも是非招致してほしい。
- ・津山特別公演のソリストの岸本萌乃加さんやニューイヤークンサートのソリストの福田廉之介さんも倉敷のジュニアフィルの出身で、幼少期からオーケストラの中で育ってきた。最近は岡山県出身の人が非常に力を伸ばしてきていることは喜ばしい。ただ、優秀な方ほど岡山へ戻ってこないということもある。
- ・若い音楽家に岡山で演奏する機会を作るなどの応援は大事だろう。
- ・限られた2時間弱のコンサートのために、時間もかけてお客様が来てくださる。県南の方はもちろんだが県北の方でも頻繁に良い催しが行われると良い。
- ・大学の学生が、地域貢献を学ぶということで、授業の中で、保育園、認定こども園、幼稚園、小学校、中学校、そして支援学校に出掛けるようになっており、先日私も学生と一緒に支援学校に行き演奏した。そこで音楽の力のすごさを実感したところだ。
- ・倉敷市では、倉敷市立美術館を会場として、市内の小中学校の美術展を1月末から2月の初旬に行っており、その開会式で「ウェルカムコンサート」を大学の学生が行っている。その最後に、近隣の幼稚園の子ども達や小学生と一緒に歌を歌い美術展のオープンを盛り上げている。

【議 長】

- ・「津山ベルフォーレ」の音楽環境が大変素晴らしいことを知らなかった。その会場で超一流のオーケストラによる超一流の音楽を聴かせることは非常に大切なことだ。

- ・県は地域性を生かすべきであり、金太郎飴のようにどこを切っても同じ顔が出てくるのではなく、どの地域も違うものになることを望んでいる。

【委員】

- ・ほかの委員の発言と同様、学校教育における文化活動の充実が大切だと感じている。
- ・私は俳句が専門で、俳句の選者をしている経験から申し上げる。
- ・某私立の小学校で、俳句を子ども達にも作らせたいということで、10年以上前から「夢俳句」という俳句の講習をしている。とても良いことだが、10年も経つと段々息が切れ、そろそろおしまいにしようかという時に、県教育委員会から賞状が出るという話になった。
- ・一番優秀な方に岡山県教育委員会から“教育委員会教育長賞”の賞状が贈られることが決まったことで、その小学校の校長が「やはりこれは意味のあることだ。」と再確認されて継続となった。
- ・このように、良い活動であっても、長くなるとだんだんと大変になり、意味があるのか等、自問自答される時期がくる。
- ・その活動を、公の機関から「それは大変意味のあることだ。」と認められるとまたやる気がでてくる。

- ・もう一つは、高校生で文芸部がある高校が一丸となって「高校生文芸道場おかやま」という団体を作っている。そこでは、俳句と短歌と詩、小説、これらを創作したものをただ応募させるだけではなく、一日講師が来て、どういう風に創作すれば良いのかを指導し、最後発表をさせるという活動をしている。20数年以上されている。
- ・先生方がやる気を持って熱意をもって取り組まれていると、生徒のやる気も出て、俳句部門では「俳句甲子園」に毎年出場されており、数年間良い成績を収めていると聞いている。
- ・俳句のジュニアに関しては、若い方がここ数年でずいぶん育ってきていると実感している。
- ・活動を10年、20年、30年も続けてされている団体を、表彰という形で評価すれば、また一段とやる気が出るのではないかと思う。

【議長】

- ・備前藩主の池田光政は儒教を説き、ほめることは大きな教育だと主張している。また、光政は、親孝行をする人を田舎の農家の人でも直々に表彰している。ほめることは教育だということを今の社会は忘れていく気がする。

【委員】

- まずなによりも「岡山はすごい」という自覚を私たちは持つべきだ。
- 津山がすごい、美作がすごいということは、ついこの前ある歴史学者の方と話をしたところだ。現在、東京国立博物館で日本書紀成立 1300年 特別展「出雲と大和」を開催している。出雲と大和の繋ぎ目が美作なので、そういう意味では美作というのはもっともっと見直さなければいけないという話が出た。
- 色々な意味で岡山はすごい、活動の面でもすごいと多くのことを（皆さんの発言から）聞き改めてそう思う。

- 例えば、俳句の活動とか文芸について言えば、中原中也という詩人を育てたのは防長新聞だ。
- 色々なことをサポートする人達はたくさんいるが、その中で、今日問題になっているのはやはり子ども達についてだ。これは他の委員もみな話されたことだ。

- 子ども達に対して働きかけが消極的になったというのは、学校教育だけの問題ではない。例えば、私のところでは、クラシックコンサートのチケットを子ども達にプレゼントする機会があったが、それに応募者がいない。というのは、さきほど話があったように、子ども達に対して、「これ面白いよ。一緒に行こうよ。」という話が伝わっていないからだ。
- 以前どこかの体育会の陸上の先生がジャージを着たままで、子ども達を20人くらい連れて美術館に来たことがあった。「大丈夫か。」と心配したが、全く問題なかった。子どもたちを美術館に連れて来ることが大切で、美術館に来ないということこそが大変な問題だということだ。

- 世間的には、文化・芸術・人文学に対する再認識というものはもう始まっている。科学技術だけではない。人文的な力や文化の力がなければこの国は成り立っていかないということを認識する人達が有識者の中でも増えてきている。
- しかし、学校教育の場ではそれが実現していない。そこで、ここまで素晴らしいことをやってきているのだからもう一歩進んでほしい。

- 岡山県内には文化の振興施策がたくさんあり、振興に携わり頑張っている団体もたくさんある。岡山県、教育委員会、各市区町村、経済同友会などの活動を一つに繋げるようなことはできないか。
- 文化振興をしている人達を繋げ、皆で子ども達に文化を親しませる場を作ることができればすごく大きな力になる。
- 例えば文化連盟の文化芸術アソシエイツなどが呼びかけたら、会ができる気も

する。

- ・先程の先生を派遣する話で、文化連盟には文化人材バンクがあり、学校に教師を派遣している。音楽、文芸や日本の邦楽、もちろん洋楽や美術もやっている。
- ・やっているが、実はニーズに応えきれてはいない。
- ・二つ原因がある。予算不足と登録している人材に限りがあることだ。

- ・文化振興を志している人達を集めたら登録してくれる人がでてくるかもしれないし、或いは市町村の予算を取ってくれるかもしれない。
- ・そういうことで子ども達に文化を親しませる場を作っていける様な連絡の場を、県だけではなくて市町村、それから民間も含めて何か場を作って頂くのが良いのではないのかなと思う。
- ・チャンスさえ与えれば子ども達は絶対乗ってくるはずだ。そのチャンスを作るために、県文化振興課だけではなく、文化の振興に志を持っている人達が一緒になってやっていくことができればいいと考えている。

【議 長】

- ・岡山県には素晴らしい文化がたくさんあるが、例えば「ばら寿司」でいえば主人公がいない。しかし、海の幸、山の幸とバランスよくばらまかれていてこれが岡山県の文化の有り様だろうと思う。主人公がなくても皆が輝いているという岡山県になれば嬉しい。
- ・どうしてそうなったかは色々な理由があるが、大和朝廷に苦戦を強いられ、見えないものの方が見えるものより大切なのだということに気が付いて立て直してきた、ということもある。
- ・岡山の歴史と文化のすごさを若い頃から認識してもらえればきっと岡山は日本一の県になるはずだ。

3 その他

- ・岡山県文化財保存活用大綱について

【事務局が資料に基づき説明】

【議 長】

- ・文化財については、昔はアンタッチャップルな面があったが、今は文化財を活用しなくては意味がないと変わってきている。
- ・文化財には、やれやれとホッとした様な表情の顔と、もう一つはこれからもう

一働きするぞという顔がある。その、やれやれの顔というのは美術館、博物館でガラス越しに見る顔だろうと思う。しかし本当はその時代に生きた人の魂がすべて込められており、観察すればするほど現代社会に生かされるものはたくさんあるというのが文化財。

【委員】

- ・色々と関わらせていただいている笠岡諸島の白石島の白石踊りだが、世代を超えて約 900 年踊り継がれており、重要無形文化財なので生きた人の数だけ形があるといわれている。
- ・継承していこうと思う高齢者は多いが、教えてあげたい子どもがほとんどいない。そして、小学校が今年度休校になり中学校も来年度は2名になることから、閉校に向かっている状況だ。
- ・先般、金光学園の高校生が、お年寄りの踊りをバーチャル化し、新しく興味を持つ人達に伝えようということで、東京へプレゼンに行った。
- ・やはり、その古い物を古い形としてだけ残すのではなく、新しい人との出会いを作り、それで若者がこの後をまた踊り継ぐ人を探そうとしている気運ができていたりする。そういう文化と教育をまたぐ様な活動の支援があると、より多くの人交流できるのではないのかなと思う。

【議長】

- ・文化財を置いておくだけでは生かされないが、文化財からヒントを得てこれまでどこにもなかった技術として生かされた事例として、ドーバー海峡を掘ったトンネルマシーンがある。岡山の企業がつくったトンネルマシンの刃物だ。それまでの刃物では、硬いものと柔らかい地層が交互にあると刃先がバラバラになっていたが、工事完了後でも、その刃物は最初の姿のままだったそう。そのマシンの刃先は岡山の企業が、「刀」からヒントを得て作ったと聞いている。

4 閉会